

新しい地方活性化

New local revitalization

No. 5

少子高齢化が進む津別町。
大学生・高校生が
まちの活性化に取り組んでいる。

若い世代のアイデアが、
このまちの未来を切り開く。
それは、まちに、そして住んでいる人に
一体どんな価値を生むのか。

今回は、HALCCの活動を紹介。
活動を通して学生目線から見てきた
このまちの未来とは。

問い合わせ先

企画係 14番窓口 ☎77-8374



HALCC代表
亀井 宏之介さん

若い世代が
まちづくりについて考え
津別町を盛り上げる

高校生と考える 津別町の未来

「何のための地域活性化で、誰のための地方創生か。そして、私たちHALCCには何ができるのか。自分自身はもちろん、メンバーに厳しく問いかけてきました」

北海道大学公共政策大学院 課外活動団体「HALCC」(ハルク)で代表を務める亀井宏之介さんはそう語る。

HALCCは創設8年目を迎え、これまで津別との深い関係を築いてきた。学生目線の地方創生をテーマに掲げ、津別町を舞台にフィールドワークを行い、地域活性化を模索。平成29年度からは津別高校と協力し、高大連携事業を続けている。

「高校生がまちの困りごとを分析し、その解決策を考え提案するカリキュラムを運営しています」という亀井さん。HALCCのメンバーは年に数回来町し、高校生と一緒に津別の未来について考えてきた。これまで高校生が挙げた提案は60件以上。生徒が提言したアイデアが、まちの小さなところから実現されはじめている。令和3年度に提案さ

れた「チミケップキャンプ場看板更新事業」は今年度実施され、利用者の注目を集めた。「高校生と顔を合わせて一緒に考える時間は、いつも驚きと刺激で溢れています。大学生の私たちでも気づかない着眼点やユニークなアイデアがどんどん出てきます」

大学生と高校生が互いに刺激を受ける。亀井さんは、生徒たちの成長にやりがいを感じている。

「高校生のアイデアが生徒たちを主体に、町民の方巻き込みながらより素敵なものになって欲しいと思っています。そして、そのためのサポートを私たちHALCCは惜しみません。これからも高校生と一緒に地域に貢献できることを模索していきます」

一年間の活動を振り返る

昨年は従来の高大連携事業・大学生独自の政策提言の他に、主に3つの活動に力を入れた。

一つ目は、今までのHALCCの活動の事業評価。過去7年にわたる活動を振り返り、高校・役場にアンケートを行った。

二つ目に、令和4年度の政策提言である、相生名物クマヤキの北海道大学文化祭への出店。メンバーの1人が相生で修行を行い、学生単独での出店を果たした。

最後に、内閣府主催の『地方創生★政策アイデアコンテスト』への応募。津別を舞台に子どもと高齢者の交流を促すプラットフォームを発案



地方創生に挑戦する

来年度よりHALCCは「地方創生に挑戦する」というテーマを掲げ、実際に行動に移すこと、実践していくことに挑戦する。「私たちHALCCや高校生が考えたアイデアを形にする。実践活動が巡り巡って、津別町の貢献につながるよう精進します」

活動の第1弾プロジェクトとして、津別町の『地域情報誌』を制作する。津別町の日常に着目し、人間味あふれる情報誌を作りたいと考えている。「この情報誌が、100年後200年後も、道東の津別というまちにこんな人が住み、こんな時間が流れていたんだと心に訴えかけるような情報誌を目指しています。魅力ある情報誌を作ることで、津別町のファン呼び水になれば幸いです」と新たな挑戦へ溢れる思いを言葉にした。

